

三田幸せプロジェクト ～明るい未来へ～

人権について
いっしょに考えましょう

かいさい
開催日

8月24日(日)

参加無料

※どなたでも参加できます。話を聴くだけでもOK!

申し込み・問い合わせ＝人権推進課 (559-5081・5148 FAX 563-3611)

会場	時間	分科会名/テーマ	報告者
三田市 総合福祉保健センター	9時45分～ 12時15分	障がいのある人と人権 コミュニケーション障がいについてみんなで考えましょう	田中 加代子さん(トークゆうゆう) 森 菜緑さん(神戸医療福祉専門学校・三田校教員) 柿本 理津子さん(音楽療法士)
	13時30分～ 16時	部落問題について考える 差別の現実から学ぶ～結婚差別を通して～	石井 眞澄さん・千晶さんご夫妻
		多文化共生と人権 外国籍の人々が日々どのようなことを思い、考えて生活しているか、 まず知ることから始めましょう	市内在住外国籍のみなさん 4人
ウディタウン 市民センター	9時45分～ 12時15分	高齢社会に生きる 高齢社会をいきいきと心豊かに生きる	江坂 道雄さん(篠山市大学活性化委員会事務局長)
	13時30分～ 16時	子どもと人権 子どもの声を聴こう～大切なことを見失わないために～	市内中学3年生の生徒 2人
広野市民センター	9時45分～ 12時15分	男女共生について考える 共に働くよこびを～人を大切にすること～	三谷 文夫さん(社会保険労務士)
	13時30分～ 16時	いのち・つながる 「死」を見つめることから「生」を考える ～「生と死」を考える授業の実践から～	古田 晴彦さん(関西学院高等部教諭)



「一人ひとりの学び方を大切にしながら」

福西 和彦さん 三田小学校教職員

特別支援学級の担任をし、3年目となります。特別支援学級では、少人数の中で一人ひとりの子どもに合わせた方法で学習を進めています。

「がんばったら、できるようになるから」

2年生だったころのAさんは、何か新しい学習を始めようとするたびに、「いやや！できひん。」と、すぐに言っていました。まだやってもいないのに、やる前からあきらめていました。あまり話もせず、何か話すときには下を向いたまま、私と目を合わさずとはしてくれませんでした。

3年生だったころのBさんは、計算の練習を繰り返しながら顔をうずめ、「ああ、なんでできないんやろ。」と言いつつ、よくため息をついていました。

そんなAさんやBさんに、「がんばったら、できるようになるから。」と、励ますつもりで言っていた私。でも、AさんやBさんは、今までがんばってこなかったのか？がんばらなかつたからうまくできなかったのか？そうではない。2人と学習をしていて、やっとそんな当たり前のことに気がつきました。AさんもBさんも、精一杯がんばっていました。がんばってがんばって、何回も漢字を書いたし、計算の練習もした。それでも、うまくいかなかった。がんばらないといけないのは、私のほうでした。AさんにはAさんに合った方法で、BさんにはBさんに合った方法で教えていかなかった私の責任でした。

「なんや、かんたんやん」

5+3=8、計算カードの数字だけを見て覚えることは苦手だったAさん。でも、5は、 $\square\square\square\square\square$ この形、8は、 $\square\square\square\square\square\square$ この形、というように、数字があらわす量を目で見る形にすると、すぐに正しい答えが出るようになるようになりました。5と3をあわせたら8のかたちになる。「なんや、かんたんやん。」Aさんは、にこにこ笑いながら言います。今では、くり上がりやくり下がりがあある計算も、筆算も、そして、かけ算やわり算など、基本的な計算は全て速く正しくできます。Aさんは、すっかり自信をとり戻しました。

Bさんは、リラックスして笑顔で学習を進めるとよく理解できます。Bさんが苦手としていた10になる数の組み合わせ(1と9)、(2と8)、(3と7)などは、カードの

表に3、その裏に7を書いておき、「3の裏はなに？」「なに！」「ピンポン、あたり！」というように、数当てゲームにして楽しみながら学習すると、たった1時間の学習で全ての組み合わせを覚えてしまいました。Bさんは、計算と音読が得意になりました。

「また、ほめられてん」

「もつとプリントちょうだい。今日は、10枚やる。」などと、Aさんはとても意欲的に学習にとり組みます。Aさんがこんながんばれるようになったのは、家族のおかげでした。Aさんががんばったことを連絡帳に書くと、次の日、Aさんはにこにしながら私のところへやってきて言います。「また、ほめられてん。」私が、「だれにほめられたん？」ときくと、「ママにもほめられたけど、今度は、じいじとばあばにもほめられた。」と、とてもうれしそうに話してくれました。

Aさんががんばったことを、家族みんながいつも認め、ほめてくださいました。そして、そのことがAさんの一番の力となりました。

Bさんの家族も素敵です。私が、「今、国語の教科書の音読を一生懸命にがんばっています。」と連絡帳に書くと、次の日、Bさんの国語の教科書には漢字の横に読み仮名が全部書いてありました。私が、「これ、自分で書いたの？」とたずねると、「ママが書いてくれてん。これで、わたし、もうだいじょうぶやねん。」と、うれしそうに教えてくれました。Bさんは、お母さんと一緒に音読の宿題が大好きです。「家庭と学校が連携してとり組むことが大切である」と、よく言われます。子どもたちの成長を見るたびに、本当にその通りだと感じます。

一人ひとりの学び方を大切に

目をきらきらと輝かせながらよくしゃべる子どもたちに、「わかった。わかったから、もうちょっと静かにして。」と、私は言います。本当は、話をすることがとても好きな子どもたちでした。そんな子どもたちを下を向かせていたのです。一人ひとりの子どもの顔が違い、性格が違うのと同じで、学び方も一人ひとり違います。その子に一番合った学び方を見つけることが、今はとても楽しいです。子どもたちがしっかりと顔を上げ、たくさん話しかけてくれることがとても嬉しです。これからも、一人ひとりの学び方を大切にしていきたいと思えます。